

⑨ 日本国特許庁(JP)

⑩ 特許出願公開

⑪ 公開特許公報(A) 昭63-32528

⑫ Int.Cl.<sup>4</sup>

識別記号

庁内整理番号

⑬ 公開 昭和63年(1988)2月12日

G 03 日 21/62

8306-211

審査請求 未請求 発明の数 1 (全4頁)

⑭ 発明の名称 透過型スクリーン

⑮ 特 願 昭61-175901

⑯ 出 願 昭61(1986)7月25日

⑰ 発 明 者 村 尾 次 男 大阪府門真市大字門真1006番地 松下電器産業株式会社内  
⑱ 発 明 者 宮 武 義 人 大阪府門真市大字門真1006番地 松下電器産業株式会社内  
⑲ 出 願 人 松下電器産業株式会社 大阪府門真市大字門真1006番地  
⑳ 代 理 人 弁理士 中尾 敏男 外1名

明 細 書

1. 発明の名称

透過型スクリーン

2. 特許請求の範囲

(1) 透光性板の入射側面に断面が三角形状のプリズム素子が配列され、投写光束が前記プリズム素子の第1面で屈折透過した後、第2面で前方向に全反射する透過型スクリーンであって、投写光束が入射しない前記第1面の一部領域と前記第2面の一部領域との少なくとも前者か或いは両者に光吸収手段を設けた透過型スクリーン。

(2) 光吸収手段は、投写光束が入射しない第1面の一部領域と第2面の一部領域との少なくとも前者か或いは両者の上に構成された光吸収層であることを特徴とする特許請求の範囲第(1)項記載の透過型スクリーン。

(3) 光吸収層は黒色であることを特徴とする特許請求の範囲第(2)項記載の透過型スクリーン。

3. 発明の詳細な説明

産業上の利用分野

本発明は投写型画像表示装置に使用して有効な透過型スクリーンに関するものであり、特に投写光束を斜め方向からスクリーン上に投写する場合に有効な透過型スクリーンに関するものである。

従来の技術

大画面のテレビジョン画像を得るために、比較的小さな映像管にテレビジョン画像を映出し、投写レンズによりスクリーン上に拡大投写する方法が従来からよく知られている。現在では、映像管、投写レンズ、透過型スクリーンの性能向上により、キャビネット内に光学系、回路系を配置し、透過型スクリーンの背後から画像を投写する方式の投写型テレビジョン装置の進歩が目ざましい。さらに最近では、この方式の投写型テレビジョン装置の奥行きを非常に薄くすることを狙って、投写レンズから出る光束を透過型スクリーンに対してかなり斜め方向から入射させる方法が提案されている(例えば、特開昭57-109481号公報)。

このような投写型テレビジョン装置の概略構成を第2図に示す。キャビネット1の上部前面に透